



2021年11月 2日
第62号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



**安全
議論**

京王線刺傷事件から考えること

10月31日19時56分ごろ、京王線の走行中の列車内で、男が刃物で乗客を切りつけ、車内にオイルをまき火を放ち、17名の方が重軽傷を負う痛ましい事件がまたしても起きました。怪我をされた方の一日も早い回復をお祈り申し上げます。

当該の列車は、通過予定の国領駅で緊急停車しましたが、停止位置がずれたためドアやホームドアが開かず、乗客は列車の窓からホームドアを乗り越え脱出しました。この事件から私たちは安全対策について考えなくてはなりません。

混乱する列車内での懸命な対応

事件発生時刻、列車は布田駅を通過中で、乗客が車内の非常ボタンを押しましたが、押した乗客はその場を立ち去ったため、この時点で運転士や車掌は車内で何が起きているか把握できませんでした。

列車は、非常ボタンが取り扱われ状況がわからない場合のマニュアル通り、次の駅(国領駅)で緊急停車するため走行を続けます。

その後、逃げてきた乗客が車掌に状況を伝え、車掌が事態を把握します。

国領駅に緊急停車した列車は、停止位置がずれたためドアを開けることができませんでした。さらに乗客により非常コックが扱われたため、停止位置を修正することもできませんでした。

運転士は運転室内にあった盾を持ち現場へ、車掌は警察官の誘導を行ったそうです。

今回の事件を受け、国土交通省は安全確保の徹底を求める通知を出し、駅構内などの巡回や、警備員らが電車に添乗して警戒を行うことなど警戒監視体制の徹底を求めています。

同じ鉄道会社として職場から検証運動を！

今回の事件は同じ鉄道会社として他人事ではられません。各駅でのホームドアの設置も進んでおり、取り扱いに大きな違いがないことから、いつ、どこで同じような事件に遭遇するかわかりません。そのため、多くの組合員が不安を抱えていると思います。

私たちは、命を最大の価値基軸に、社員とお客さまの安全を守るため、現在の人員や設備・マニュアル等で十分であるか検証しなくてはなりません。

**職場から安全議論をつくり出し、
安全で安心して働ける職場環境をつくり出そう！**